

していない製品と本製品を接続する場合は、接続先機器のポートの通信モードを Half Duplex に設定してください。

接続先ポート	GS908L
	Auto
Half	○
Full	—
Auto	○
1000M	Auto

## 9 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

### ● POWER LEDは点灯していますか?

POWER LEDが点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

### ● 電源をオフにした後、すぐにオンにしていませんか?

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

### ● LINK/ACT LEDは点灯していますか?

LINK/ACT LEDは接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

- 接続先機器に電源が入っていることを確認してください。

- 正しいUTPケーブルが断線なく正しく接続され、障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。

- UTPケーブルに問題がないか確認してください。

ケーブルの不良は外観からは判断しにくいため（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試してみてください。

- ケーブルの長さが制限を超えていないことを確認してください。

2つのネットワーク機器の直接リンクを形成するUTPケーブルは最長100mと規定されています（ただし、100MbpsのクラスIIのリピーターをカスケード接続する場合のリピーター間は5m以内としてください）。

- ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。

特定のポートが故障している可能性もあります。

- 接続先機器の通信モードを確認してください。

本製品のポートは、オートネゴシエーション機能をサポートしています。

IEEE 802.3u規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品のポートを接続する場合は、接続先機器の通信モードを Half Duplex に設定してください。

## 10 製品仕様

準拠規格	
IEEE 802.3	10BASE-T
IEEE 802.3u	100BASE-TX
IEEE 802.3ab	1000BASE-T
IEEE 802.3x	Flow Control
適合規格	
安全規格	UL60950-1 CSA-C22.2 No.60950-1
EMI 規格	VCCI クラスB
電源部	
定格入力電圧	AC100 - 120V
入力電圧範囲	AC 90 - 132V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	0.6A
最大入力電流	0.26A
平均消費電力	12W (最大 14W)
平均発熱量	43kJ/h (最大 50kJ/h)
環境条件	
動作時温度	0 ~ 40°C
動作時湿度	80% 以下 (結露なきこと)
保管時温度	-20 ~ 60°C
保管時湿度	95% 以下 (結露なきこと)
外形寸法 (突起部含まず)	
	250(W)x116.5(D)x36.5(H)mm

質量	900g
スイッチ方式	ストア&フォワード
MACアドレス登録数	4K (最大)
MACアドレス保持時間	300秒
メモリー容量	128KByte
パケットバッファー容量	128KByte

## 11 保証と修理

本書に関する著作権などの知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。弊社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

### アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

0120-860332

携帯電話／PHS からは：045-476-6218  
月～金（祝・祭日を除く） 9:00 ~ 12:00  
13:00 ~ 17:00

### ● 保証の制限

本書の使用または使用不能によって生じたいがる損害（人の生命、身体に対する被害、事業利益の損失、事業の中止、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましても、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

## 12 ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

### アライドテレシス株式会社 サポートセンター

http://www.allied-telesis.co.jp/support/info/

0120-860772

携帯電話／PHS からは：045-476-6203  
月～金（祝・祭日を除く） 9:00 ~ 12:00  
13:00 ~ 18:00

## 13 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

### ● 一般事項

すでに「サポートID番号」を取得している場合、サポートID番号をお知らせください。サポートID番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいくまいせん。

### ○ サポートの依頼日

お客様の会社名、ご担当者名

### ○ ご連絡先

### ○ ご購入先

### ● 製品について

製品名、製品のシリアル番号（S/N）、製品リビジョンコード（Rev）などのハードウェア情報をお知らせください。

製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に貼付されているシリアル番号シールに記入されています。



図 16 シリアル番号シール（例）

### ● 設定や LED の点灯状態について

○ LED の点灯状態をお知らせください。

### ● お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、またそれはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）お知らせください。
- ネットワーク構成について
- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

## 14 ご注意

本書に関する著作権などの知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく本書の全體または一部をコピーまたは転載しないでください。弊社は、予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。

© 2006-2007 アライドテレシスホールディングス株式会社

## 15 商標について

CentreCOMは、アライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

## 16 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 17 廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただけますようお願いいたします。

## 18 日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

0120-860442

月～金（祝・祭日を除く） 9:00 ~ 17:30

## 19 マニュアルバージョン

2006年3月 Rev.A 初版

2006年7月 Rev.B マグネット注記追加

2006年8月 Rev.C 誤記修正

2007年10月 Rev.D 設置方向に関する記述追加

613-000409 Rev.D 071026

## ギガビットイーサネット・スイッチ

# CentreCOM® GS908L ユーザーマニュアル

この度は、CentreCOM GS908L をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本製品は、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートを 8 ポート装備したギガビットイーサネット・スイッチです。本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後も大切に保管してください。

## 1 特長

- 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートを 8 ポート装備
- 19インチラックマウントキットを標準装備
- AC 電源を内蔵
- ファンレス設計
- ポートの通信状況が一目でわかる LED を装備
- オートネゴシエーション機能をサポート
- 全ポート MDI/MDI-X 自動切替機能をサポート
- フローコントロール機能をサポート  
Half Duplex 時：バックフレッシュ  
Full Duplex 時：IEEE 802.3x PAUSE
- Jumbo フレーム対応 (9228 Byte 以下)
- 最大 4 K の MAC アドレスを登録可能

## 2 製品の最新情報について

本製品リリース後の最新情報を弊社のホームページにてお知らせします。

### オプション（別売）

- 壁設置用ブラケット AT-BRKT-J23 により、壁面への設置が可能
- マグネット Kit XS により、スチール製壁面への設置が可能（1セットで本機 2 台設置可能）
- 電源ケーブル抜け防止金具 AT-RTNR-01 に対応

## 3 梱包内容

最初に、梱包箱の中に次のものが入っていることを確認してください。

- CentreCOM GS908L 本体（1台）
- 電源ケーブル\*（1本）
- ゴム足（粘着タイプ）4個
- 専用 19インチラックマウントキット（ブラケット 2 個、ブラケット用ネジ 4 個）
- 製品保証書（1枚）
- シリアル番号シール（2枚）
- ユーザーマニュアル（本書）

\* 同梱の電源ケーブルは本製品専用です。本製品以外には使用できませんのでご注意ください。

また、本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望れます。再梱包のために、本装置が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管しておいてください。

アイコン	意味	説明
	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

## 安全のために

## 4 各部の名称と機能

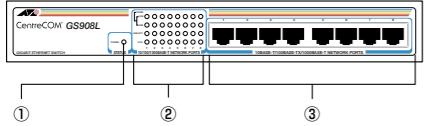


図 1 外観図(正面)

### ① POWER LED (緑)

本体に電源が正常に供給されているときに点灯します。

### ② PORT LED

○ 10M, 100M (緑)

10Mは、ポートが10Mbpsで動作しているときに点灯します。100Mは、ポートが100Mbpsで動作しているときに点灯します。10Mと100Mが点灯しているときには、1000Mbpsで動作していることを示します。

○ LINK/ACT LED (緑)

ポートと接続先機器がリンクしたときに点灯します。また、パケットを送受信しているときに点滅します。

○ FULL LED (緑)

ポートがFull Duplexで動作しているときに点灯します。消灯している場合は、Half Duplexで動作していることを示します。

### ③ 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポート

10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-TのUTPケーブルを接続するためのコネクターです。接続先の種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスどちらのケーブルでも使用できます。また、これらのポートはオートネゴシエーション機能をサポートしているため、最適な通信速度と通信モードを自動設定します。

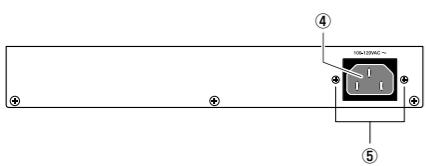


図 2 外観図(背面)

### ④ 電源コネクター

電源ケーブルを接続するためのコネクターです。

### ⑤ 電源ケーブル抜け防止金具取り付けねじ

オプション(別売)電源ケーブル抜け防止金具(AT-RTNR-01)の取り付けに使用します。

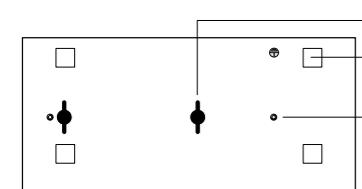


図 3 外観図(底面、ポート下向き)

### ⑥ 壁面設置穴(2箇所)

本製品を壁面に設置するための穴です。

### ⑦ ゴム足取り付け位置(4箇所)

同梱のゴム足を貼付する場所(□型の枠)です。

### ⑧ マグネットKit取り付けねじ穴(2箇所)

オプション(別売)のマグネットKitを取り付けるねじ穴です。

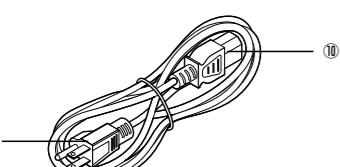


図 4 電源ケーブル

### ⑩ 電源プラグ

電源ケーブルを電源コンセントに接続するためのプラグです。

### ⑪ 電源コネクター

電源ケーブルを本製品に接続するためのプラグです。

## 5 設置

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。

### 設置方法

本製品は、次の方法による設置ができます。

○ ゴム足による水平方向の設置

○ 同梱のラックマウントキットによる19インチラックへの水平方向の設置

○ タッピングスクリューによる壁面への設置

本製品は、同梱の専用19インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

### 1. 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずす

### 2. プラケットを取り付ける

同梱の19インチラックマウント用プラケットを付属のネジを用いて、本体の両側面にしっかりと固定してください。

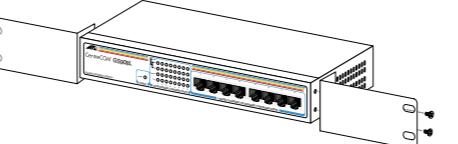


図 5 ゴム足の取り付け

### ● 19インチラックに取り付ける

本製品は、同梱の専用19インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

### 3. 19インチラックに取り付ける

19インチラックの希望する位置に本体を合わせ、適切なネジ(別途ご用意ください)でしっかりと固定してください。

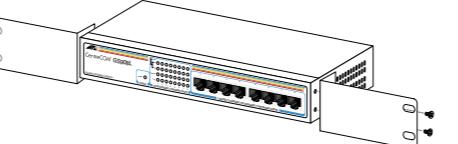


図 6 プラケットの取り付け

### 設置準備

#### ● 設置するときの注意

本製品を設置する場所を確認してください。設置場所については、次の点にご注意ください。

○ 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさせてください。

○ テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。

○ 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

○ 底部を上にして設置しないでください。

○ 充分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。

○ 本体の上にものを置かないでください。

○ 直射日光のある場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

○ 本製品は屋外ではご使用になれません。

○ コネクターの端子にはさわらないでください(静電気を帯びた手(体)でコネクターの端子に触ると、静電気の放電により故障の原因となります)。

### オプションを利用した設置

#### ● 壁面への取り付け

本製品の壁面への設置は、別売の壁設置プラケットAT-BRKT-J23を使用し、以下の点に注意して行ってください。

・ 壁設置プラケットの使用方法は、AT-BRKT-J23の取扱説明書をご参照ください。

・ 本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

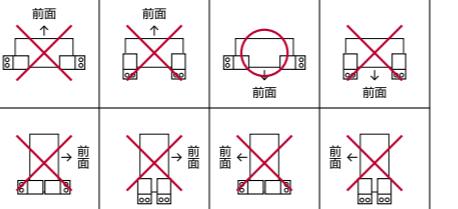


図 8 取り付け可能な方向

#### ● 平らなところに設置する(ゴム足を取り付ける)

本製品をデスクの上などに設置して使用する場合は、本体底面の四隅にある□型の枠に同梱のゴム足を貼り付けてください。

ゴム足は本体を固定し、衝撃を吸収するクッションの役目をしますので、本製品をデスクの上などに設置する場合は、必ずゴム足を使用してください。

マグネットキットとゴム足は同時に使用することはできません。

・ 壁設置プラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。

・ 壁設置プラケットを使用する際は、本製品からゴム足を外してください。

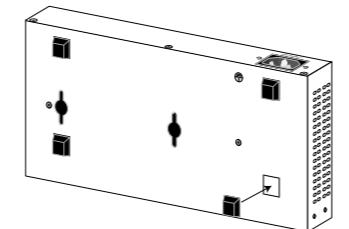


図 9 ゴム足の取り付け



・ 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因になります。

・ 壁設置プラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不充分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

### ● スチール製壁面への設置

本製品のスチール製壁面への設置は、別売のマグネットKit XSを使用し、以下の点に注意して行ってください。

・ マグネットキットの使用方法は、マグネットKit XSの取扱説明書をご参照ください。

・ 本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

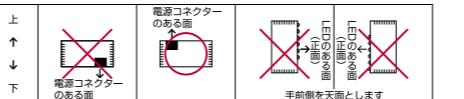


図 10 マグネットキットを使用する場合の設置方向



設置面の状態によっては、マグネットの充分な強度を得られない場合があります。

・ 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因になります。

・ マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。

マグネットKit XSに同梱されているマグネットは4個ですが、本製品では2個使用します。

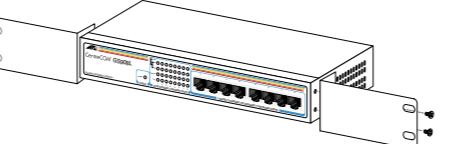


図 11 タッピングスクリューの間隔

### タッピングスクリューによる壁面への設置

本製品は、壁面設置用タッピングスクリューを使用することにより壁面に取り付けることができます。

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。



図 12 本体の取り付け

## プラスチックアンカーの使用について

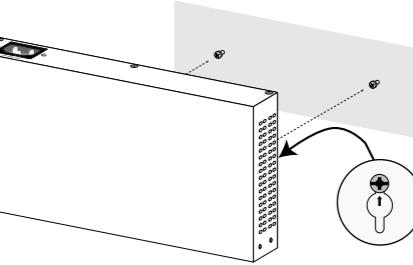
プラスチックアンカーを使用する場合は、きりやドリルなどで開けた穴に挿し込み、かなづちで軽くたいて壁に埋め込んでください。

穴はプラスチックアンカーが入る程度の大きさにしてください。穴が大きすぎると落下の原因となります。

### 3. 本体を壁に取り付ける

壁から突き出ているネジ頭を本体底面の取り付け穴にさし込むようにして取り付けます。このとき、ネジ頭がスロットにはまるまで本体をスライドさせ、しっかり固定させてください。

ネジ頭を壁から出し過ぎた状態にてご使用になりますと、GS908Lを壁に取り付けた際に製品内部に干渉し、故障の原因となります。



## 6 接続

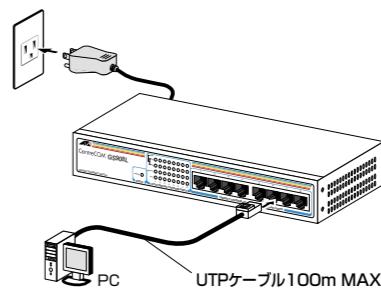


図 14 電源ケーブルの接続



本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。



本製品はオプション(別売)の電源ケーブル抜け防止金具(AT-RTNR-01)に対応しています。

### 1. 本体側の電源コネクターを接続する。

図 14 の①をご覧ください。

### 2. 電源プラグを電源コンセントに接続する

図 14 の②をご覧ください。

このとき、本体前面のPOWER LED(緑)が点灯することを確認してください。UTPケーブルが正しく接続され、接続先機器とのリンクが確立されると、接続したポートのLINK/ACT LED(緑)が点灯します。

### 本製品の停止

本製品を停止するには、電源コンセント側の電源プラグを抜いてください。



電源コンセント側に差し込んだまま、本体背面に接続した電源コネクターを抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。



電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間を開けてください。

## 7 カスケード接続

本製品は、全てのポートでMDI/MDI-X自動切替機能をサポートしていますので、ケーブルの種類(ストレート/クロス)および接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)を意識することなく、簡単にカスケード接続ができます。



・ スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限はありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。



・ カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアブリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

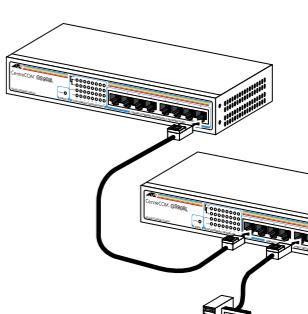


図 15 カスケード接続の例

本体の任意のRJ-45ポートにUTPケーブルを接続し、もう一端を接続先機器の任意のポートに接続します。

## 8 設定

### 通信速度 / 通信モードの設定

本製品と接続先機器の通信モードは、次の表の○印の組合せになるように設定してください。

IEEE 802.3u規格のオートネゴシエーション機能をサポート